

## 壱岐 鬼伝承・鬼凧の伝承 「百合若大臣の鬼退治 & 鬼凧」

壱岐は朝鮮半島と九州との間 玄界灘の中央にあり、古代から半島交易の中心地  
数々の渡来集団がはいるこんで、施政者・土着集団と数々の抗争があったと推察  
され、数多くの鬼伝承を産んできた。

昔々、壱岐は、“鬼”がたくさん住んでいた鬼ヶ島だったそう。

鬼は、島を我が物顔で荒らしまくり、島に住む人を苦しめていたらしい。

その鬼の悪行を見かねた豊後国（=ぶんごこく 現大分県）の若武者百合若大臣（ゆりわかだいじん）が  
壱岐に鬼退治にやってきた。

百合若大臣は、壱岐に着くやいなや、次々と鬼に切りかかり、鬼をやっつけていった。

最後に残った鬼の大将である「悪毒王（あくどくおう）」と相対した。

悪毒王との激戦の末、百合若大臣は刀を振り下ろし、悪毒王の首を斬り落としました。

斬り落とされた鬼の首は空中に舞い上がり、百合若大臣の兜（かぶと）に噛み付いたがそのまま、死んでしま  
った。

その勇士の姿を描いたのが“鬼凧（おんだこ）”です。

また、百合若大臣によって退治された鬼たちは、天空から、壱岐にもどる機会をうかがっていたそう。

その鬼が、再び壱岐の島に降りてこないように、壱岐に住む人たちは、悪毒王の首が百合若大臣の兜に取り付  
いた様子を描いた鬼凧を天に向けて揚げたらしい。

それを天空から見た鬼たちは、怖気（おじけ）ついて、二度と壱岐の島には降りてこなかったとさ。

鬼凧の背には弓状に張った弦（つる）を取り付け、空中では、「ビューン ビューン」と音がするのが特徴で  
す。今日では、凧揚げの目的以外に、家の魔よけとして飾られています。

[ 鬼 凧 ]

